大阪湾再生に関するシンポジウム等の実施について

(1)大阪湾再生シンポジウム

●大阪湾再生の取り組みを一層推進し、市民･ＮＰＯ･学識者･企業との連携や協働を拡大するため、シンポジウムを開催しました。

【日時】平成 19 年 12 月 15 日（日）
【場所】大阪府立国際会議場（グランキューブ大阪）
【参加人数】約２５０人
【主催】大阪湾再生推進会議（後援：瀬戸内・海の路ネットワーク推進協議会）
【内容】水中写真家・中村征夫氏による写真を交えた講演の他、大阪湾一帯で活動をしている NPO 団体によるポスターセッション、パネルディスカッションを実施

特別講演の様子（中村氏）

水中写真を交えた講演

ポスター（日本ウミガメ協議会）

ポスター（関西大学第一中学校）

パネルディスカッションの様子

パネルディスカッションでの意見交換の様子

1)パネルディスカッションにおけるパネリストからの意見

①大阪湾再生や行動計画の取り組み方針や目標など全般に関する意見

○多様な主体との連携の必要性

・地域の中で生きたネットワークを構築し活動を進めることが大事である。
・行政のみならず、住民との協働が重要であり、特に、子供、若者の力は大きい。
・市民も海辺、川辺の親水施設などに出かけ、水辺に親しみを持つとともに、大阪湾の現状を実際に見て実感することが大事である。

○さらなる取り組みの推進

・大阪湾南部など、現在残っている環境を損ねず、できることから実践することが大事である。
・できることからやるのは大事であるが、さらに積極的な取り組みの実践が重要である。
・海や生物の視点も取り入れた循環型経済社会づくりという観点が必要である。

②施策推進に関する意見、提案

○多様な主体との連携の必要性

・ハードの維持管理（順応的管理）については市民の役割が大きい。

○海陸連携の必要性

・海と陸の結節点であるエコトーン（移行帯）を再生することによる、海陸の連続性の復活が必要である。

○親水性の向上

・市街地から臨海部の浅場までのアクセスがよくないという、都市計画上の問題の解決が必要である。

○大阪湾再生のためのモニタリング

・より多くの市民の関心を得るためにも、市民にわかりやすい指標として目に見える生物（例えば、スナメリ）をとりあげるとよい。

2)シンポジウム出席者へのアンケートにおける主な意見

①大阪湾再生や行動計画の取り組み方針や目標など全般に関する意見

○多様な主体との連携の必要性

・企業、府民県民をもっと巻き込む必要がある。
・大阪湾の実態がどうなっているか考える日をつくってほしい。

②施策推進に関する意見、提案

○親水性の向上

・大阪湾は水に触れられない場所が多い。
・市民が海に親しむ場所を増やして欲しい、また、そのような場所を PR してほしい。

○ごみの削減

・ゴミ拾いなどのコストを考えると、水路や河川レベルでのアバ（水面に浮上させて設けられた、流木、塵芥が流下するのを防止するための設備）復活が必要である。